

地域別集計報告 QOQLP月

PP月評価における経産牛の遺伝的能力評価値について、地域別の集計結果を掲載しています。

<比較対象>

改良の進み具合が分かるよう、現在とR年前の能力を比較したグラフを表示しています。

現在の値にはQOQQ年生まれの個体、R年前はQOPX年生まれの個体を対象に、rau G標準化育種値Hの平均を計算し、rauの平均値と、G H内にはR年間の増加量を表示しています。

<地域区分>

個体数ができるだけ均等に確保できるよう、北海道、東北地方、関東地方、北陸・中部地方、近畿・中国・四国地方、九州・沖縄地方の6つの地域に分けて集計しています。

<対象形質>

泌乳形質や体型形質などから、総合指数にも関係する、乳量、乳蛋白質量、肢蹄、乳器、体細胞スコア、泌乳持続性、在群能力のV形質の評価値を対象としています。

体細胞スコアは値が低くなるほど好ましい形質であるため、正負の符号を逆にした値を掲載しています。

地域の特徴

北海道

- ・乳量、乳蛋白質量、泌乳持続性、在群能力の評価値は地域の中で一番高い。
- ・泌乳持続性は増加量が一番大きい。

北陸・中部

北海道

九州・沖縄

- ・在群能力の評価値は地域の中で一番高く、乳器、体細胞スコアの評価値も高い。
- ・在群能力の増加量が一番大きい。

佐賀	福岡
長崎	大分
熊本	宮崎
鹿児島	

山口	島根	鳥取	兵庫	滋賀
広島	岡山	大阪	奈良	
愛媛	香川	和歌山		
高知	徳島			

近畿・中国・四国

- ・乳量、泌乳持続性の評価値が高い。

東北

- ・肢蹄、乳器、体細胞スコアの評価値は地域の中で一番高い。
- ・乳器は評価値の増加量が一番大きい。

青森	岩手
秋田	宮城
山形	福島
群馬	栃木

関東

- ・乳蛋白質量、泌乳持続性の評価値が高い。
- ・乳蛋白質量の増加量が比較的大きい。

注) 増加量: 各形質の「評価値」の増加量

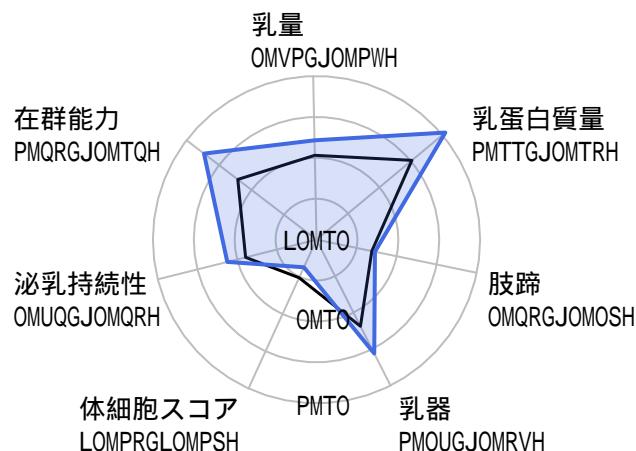
: QQQQ年

: R年前QQQX年H

※ ￥ 乳量・乳蛋白質量N肢蹄・乳器N体細胞スコアN泌乳持続性N在群能力について、QQQQ年の平均値を計算した個体数

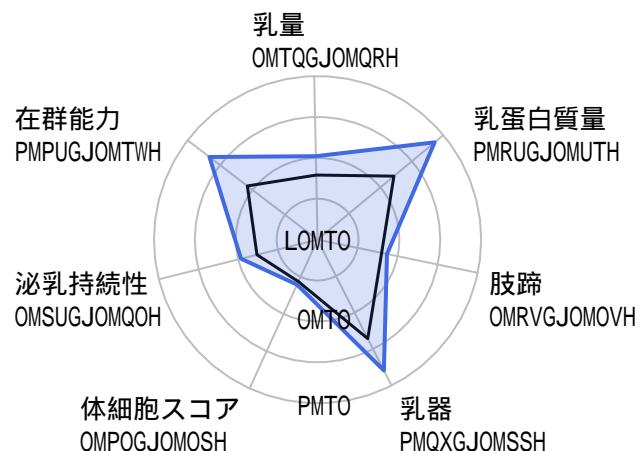
北海道

※ ￥ POPKQXQN QTKRWVN XTKVQXN POPKQXQN PSKQTT



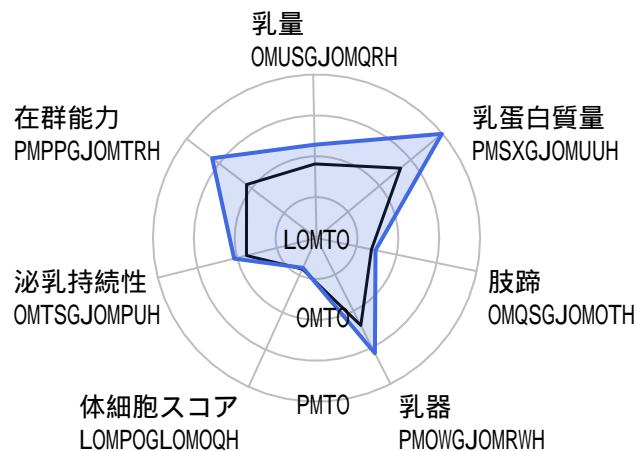
東北

※ ￥ TKSUXN QKQSXN TKPPRN TKSUXN PKQVV



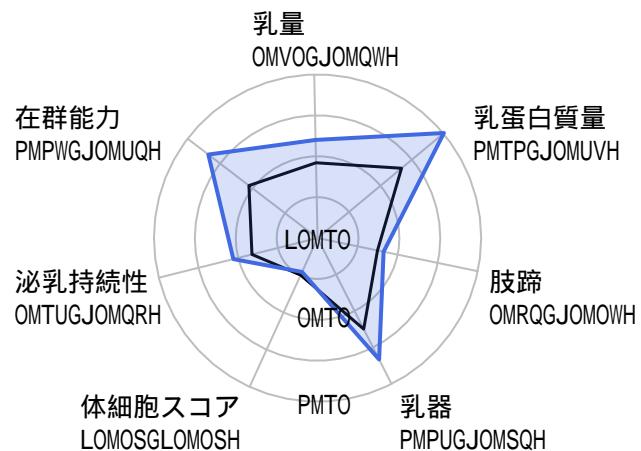
関東

※ ￥ VKTRWN QKWQON VKOPQN VKTRWN XTT



北陸・中部

※ ￥ QKWQSN XSRN QKTVRN QKWQSN QTP



近畿・中国・四国

※ ￥ TKRSTN PKVOXN SKXRN TKRSTN SWT



九州・沖縄

※ ￥ WKUTQN QKRVPN WKOXPN WKUTQN PKUPV

